

会 議 録

内容承認	公開・ 非公開	＜開催日＞平成 31 年 1 月 31 日（木）	＜傍聴人数＞ 4 名																			
久保会長 浦嶋副会長 今西委員		＜時 間＞10:00～12:00	＜傍聴室＞ 市役所新館 4 階 第 1 委員会室																			
		＜場 所＞ 市役所新館 4 階 第 1 委員会室																				
	公開																					
＜名称＞ 第 2 回岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会																						
<p>＜出席者＞</p> <p>◇岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会委員（○出席、■欠席）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 11%;">井上</td> <td style="width: 11%;">今西</td> <td style="width: 11%;">浦嶋</td> <td style="width: 11%;">久保</td> <td style="width: 11%;">中牟田</td> <td style="width: 11%;">野内</td> <td style="width: 11%;">藤原^(修)</td> <td style="width: 11%;">藤原^(亨)</td> <td style="width: 11%;">松山</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>■</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>◇関係者 花田中学校長会会長、篠本小学校長会会長、寺田幼稚園長会会長、津村保育所長会運営委員長</p> <p>◇事務局 樋口教育長、藤原教育総務部長、谷学校教育部長兼人権教育課長、山田総務課長、山本^(隆)学校給食課長、山本^(千)学校管理課長、倉垣学校教育課長、松本総務課参事、高井総務課参事、金永総務課主査</p>					井上	今西	浦嶋	久保	中牟田	野内	藤原 ^(修)	藤原 ^(亨)	松山	○	○	○	○	■	○	○	○	○
井上	今西	浦嶋	久保	中牟田	野内	藤原 ^(修)	藤原 ^(亨)	松山														
○	○	○	○	■	○	○	○	○														
<p>＜議題等＞</p> <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p style="margin-left: 20px;">（1）事務局からの報告について</p> <p style="margin-left: 20px;">（2）アンケート調査結果【小学校】について</p> <p style="margin-left: 20px;">（3）小学校の適切な学校規模について</p> <p style="margin-left: 20px;">（4）その他</p>																						

<概要>

- 開会 事務局から本審議会成立の旨報告
- 議題（１）、（２）について事務局から説明、質疑
- 議題（３）について各委員の意見交換、質疑
- 議題（４）について事務局から次回開催スケジュール等の説明

【久保会長】

まず本会議の署名委員として今西委員を指名いたします。今西委員よろしくお願
いします。

それでは、議題（１）事務局からの報告についてお願いします。

【金永総務課主査】

本日改めて、皆様のお手元に配布させていただきましたが、前回の会議終了後、
平成 30 年 11 月 5 日付の文書にて皆様からのご意見、ご質問に対する回答書及
び修正資料、追加資料の送付をさせていただいております。また送付文書の下段
にも記載しておりますとおり、前回会議の中で、【資料⑥】岸和田市立小中学校
の学校規模の児童生徒数について、会議の際は支援学級の児童生徒を含むとお答
えさせていただきましたが、正しくは含んでおらず、【資料⑥】の児童生徒数に
ついては通常学級の児童生徒数のみ記載しております。申し訳ございませんが改
めて回答の訂正をさせていただきます。

続きまして、本審議会における諮問事項の再確認とご議論いただく視点につい
て、総務課長の山田より説明させていただきます。

【山田総務課長】

前回の会議の際に樋口教育長より、久保会長へお渡しさせていただいた諮問書
におきましては、本市の小中学校の適正な学校規模の基本的な考え方とその適正
な学校規模を確保するための具体的な方策についてご議論をお願いしているこ
ろでございます。

本市の小中学校の学校規模は、少子化の影響による小規模化が進んでおり、学
校が小規模であることに伴う課題が顕在化しつつあります。今後も少子化の進展
が予測される中、本審議会では、本市の子ども達にとって「より良い教育環境」
を構築するうえで、学校全体の規模はどれくらいが良いのか、適切な学校規模に
するためにはどのような方策が考えられるのか等をご議論いただき、答申をいた
だきたいと考えております。

前回の会議でご意見を頂戴しました“まちづくりや人口増加策の必要性”につ
いては、市全体の施策として重要であると認識しているところであり、適正な規

模にするための方策や学校配置を考えるうえで、当然考慮し検討することになりますが、本審議会においては人口を増やす方策を考えるのではなく、まずはどれくらいの学校規模が子ども達にとって最適な教育環境なのか、という視点でご議論いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【井上委員】

2点確認しておきたいことがあります。

まず現在策定している教育大綱について、前回の会議で副会長からも参考にしてくださいといったご意見がありました。現段階で示せるものがあればお示してください。

それから前回の会議でも少し触れましたが、少子化に伴い学校規模が小さくなっていく中で、特に山手、具体的に言えば東葛城小学校で特認校の制度をとということ。前年から取り組んできたわけですが、これは非常にいい取り組みであると思うのですが、その募集状況について、結果がどうなのかということと、その結果が出る前に学校や教育委員会に対する教育内容などの質問や問い合わせがどれくらいあったのか、そのあたりをお聞かせください。

【久保会長】

ありがとうございました。

井上委員から2点、教育大綱について、もう1つは東葛城小学校の来年度から小規模特認校を導入するということ。その現況報告をとということ。ありました。

これについて、事務局から説明をお願いします。

【山田総務課長】

まず教育大綱についてであります。現在パブリックコメントを募集しております。それがまとめ次第、本審議会においてもお示しをさせていただきたいと考えております。

【久保会長】

次回の会議までにまとまるのでしょうか。

【山田総務課長】

それまでにはまとまる予定をしております。

【久保会長】

井上委員、教育大綱については次回報告ということでよろしいでしょうか。

【井上委員】

はい。

【久保会長】

それでは東葛城小学校の現況についてお願いします。

【山田総務課長】

東葛城小学校の特認校制度については地域の方々の強い要望によって動き出したものであります。特認校を開始するにあたり学校を知って頂くためのイベントを1回、学校の見学会を9月に2回、10月末に見学会、説明会を開催しました。

10月の説明会では12組の方が参加され、学校の特徴や通学の際の留意点等の説明をさせていただきました。11月1日から20日までを受付期間として児童の募集を行った結果、申し込みをされたのは3名です。しかしながら、辞退者が1名出たため最終的に31年4月に特認校制度を利用した入学者は2名ということになっております。

どちらの方も比較的浜手の方でありますので、制度の趣旨を十分承知いただいたうえで、魅力を感じて来ていただけるものと考えております。

引き続き32年度の募集の中で、課題等を整理し、より多くの方に魅力を発信できるように努めていきたいと考えております。

【久保議長】

ありがとうございました。

小規模特認校については私事で申し訳ないですが、私の研究課題であり、全国を回っております。昨年末には沖縄の名護のほうで調査をし、今年は兵庫県北部養父市の建屋小学校にも行っております。

いろいろ情報はありますので、また使っていただけたらと思います。

初年度で2名というのはそれほど少ない数ではありません。知られるまで時間がかかるので、まず2名おられるということで私としては大変喜んでおります。

【井上委員】

先ほどのお話の中で、学校や教育委員会に対して、例えば通学手段がどうかといった相談内容にどんなものがあったのか教えてください。

【山田総務課長】

市として補助してもらえるものがあるのかといった通学手段に関係する内容の問い合わせが大半でありました。ただその際の回答として、特認校に来ていただくということについては、保護者の責任において通学をしていただくということが条件になります、ということでお答えさせていただいています。また学校のポスター等においてもその条件を記載し、周知をさせていただいたので、あまり詳細なご質問はいただいております。件数として5、6件といったところでございます。

【井上委員】

他の人から聞いた話であるが、ある外国人の子どもと親御さんが岸和田市に来られて、そのお子さんが日本語の教育についていけないため、手厚い教育という趣旨で東葛城小学校に手を挙げようと思っているということを知りましたが、やはり交通手段がしんどいということであったので、通学手段が大きな課題であると思いました。

【久保議長】

ありがとうございました。

東葛城小学校の場合は公共交通機関、バスがあるが居住地域によってはそれをうまく利用できないこともあるので、今後ご検討されるものと思います。

【藤原修身委員】

今の件ですが、個人の責任でということは費用も個人負担ということですか。同じ学校に山手から通っている子はバス代が出ていると思うが、不公平感はありませんか。

【山田総務課長】

東葛城小学校区の方については校区内ですので遠距離通学の補助は出ています。ただそれは、校区の中で通学されているので補助はできますが、特認校制度の元々の趣旨は、本来校があるなかで特認校を選ぶという観点で子どもは捉えているので、通学費がかからなくても本来的には通学できる学校がありながら、あえて東葛城小学校を選んでいただいているというところにおいて、個人的な負担をお願いしております。

【久保議長】

全国の小規模特認校の通学の補助については様々ですが、補助しているほうが少数です。ただ大阪府の中にも補助しているところもあります。

公平性というところについて、本来の通学区に行かないでということなので、それをどう原理的に位置づけるかということは難しい問題もあるが、様々であるということをご報告しておきます。

私の方から、今事務局から審議の在り方についてお話がありまして、そのとおりかというふうに思うのですが、ただちょっと確認しておきたいのは、適切な学校規模ということになるとどうしてもその学校の学級数ということになりますが、学級数だけではなく、1学級の児童生徒の人数がどうかということが非常に大きな問題になってきます。より良い教育環境を構築するということが目的ですから、全校の学級数だけではなく1学級の児童生徒がどれぐらいだったら良い教育環境なのかというようなことも含めて私どもとしては審議させていただきたいと会長として考えていますが、その点事務局いかがでしょうか。

【山田総務課長】

学級数と1学級の学級人数は切り離せないものであると思いますので、そこも含めてご議論いただければと考えています。

【久保議長】

ありがとうございます。

【今西委員】

教育大綱のパブリックコメントについては内容が膨大ですし、市のホームページでもなかなか探していかないと見当たらないということがあって、たくさんの方が目に触れるという点では非常に難しいのではというふうに思ったのですが、今どれぐらいの数が集まっているかわかりでしょうか。併せて、周知の努力もしていただきたいと思います。

【山田総務課長】

教育大綱については、総合教育会議の中で決定していくものでありますが、主体が企画課となっておりますので、現在のところ企画課のほうからどれほどの件数が集まっているか等については連絡を受けていないところです。申し訳ないですが現状把握しておりません。

【久保議長】

全体の時間も制約がありますので、次に移っていきたいと思います。今の事務局の主旨をくみ取りながら、幅広く子どもにとってより良い教育とは何かということで活発なご議論をお願いしたいと思います。

本日は議題（２）にもあるように主に小学校を中心的にお考えいただきたいと思
います。

それでは議題（２）の小学校に関するアンケート調査結果について事務局より報
告いただきます。

【金永総務課主査】

（資料①学校規模・配置適正化に関するアンケート調査結果報告書について説明）

【久保会長】

ありがとうございました。

本日はこの後、小学校の適切な学校規模及びより良い教育環境についてご議論い
ただきますが、まずは今のアンケートの報告についてご質問等はございますか。

【今西委員】

保護者の配布数が各学校で異なりますが、小学校 1 クラスの在籍数がこの数だと
いうことでよろしいのでしょうか。

【金永総務課主査】

はい。各学校 6 年 1 組の児童保護者を対象としていますので、各学校でばらつ
きが生じております。

【久保会長】

私が気になったのは、40 人を超えるので何とかしてほしいという自由意見が教
員、保護者双方から出ていたと思いますがこれはどういう事情でしょうか。年度途
中に転入学があって 40 人を超えるということでしょうか。40 人を超えることは
法律や大阪府の基準でもないと思いますがいかがでしょうか。

【松本総務課参事】

基本は 1・2 年生 35 人、3 年生以上は 40 人と定められたとおりの運用であり
ますが、支援学級に通う児童が通常学級に戻ってくる時間のご指摘であると思いま
す。

【久保会長】

支援学級は別に学級としてありますが、通常学級で学習している時間もあるの
で、その時に 40 人を超えているということですね。そのことについて保護者の方
が、そういう仕組みになっているということをおわかりになっているのか心配であ

りますが、そういう意味として捉えたらいいのですね。途中で転入学してきた場合はどうなりますか。

【松本総務課参事】

年度途中で再編成となるとなかなか難しい部分もあるので、年度当初でそのあたりを判断して、3クラスでいくのか2クラスでいくのか等を学校で決めているという状況です。

【井上委員】

1つは、1学級がいいという回答が零点何%だったということで、ちょっと意外に思ったのですが、やはり少人数の良さというものも当然あるわけで、それが教育委員会では人数とクラス数だけでなく、といったことを強調する傾向にあるのかなと、私は学校として少人数が望ましいという意見がもっとあるものと思っていました。ところがこのような結果が出ていて意外でありました。調査項目については無理な設定だと思いますが、各学年1クラスの学校でいた児童生徒、教員が18学級の学校へ、またその逆のパターンの意見がここへ反映出来たら非常におもしろい結果が出たのかと思いました。また、教育内容にかかわるところで非常に印象に残ったのが、異学年の縦割りの活動が非常に効果的だなあと感じました。その他意見の中でも随分出ていますように、教育内容の中ですごく有効なんだということは今更ながら思いました。

【久保会長】

ありがとうございました。

今の井上委員の意見を確認しておきますと、1つはご感想として1学年1学級についての支持が思ったよりも少なかったということ、1学年1学級の良さがあるのではないかと井上委員はお考えだということ、もう1つは小規模の学校における縦割り、この部分の評価が高いという点では同感だということでありました。

【藤原修身委員】

アンケートの中で小規模の学校も含め2~3学級が良いという意見が多いということと、通学の安全性について担保してほしいという意見についてですが、現実的に小規模校で2~3学級を実現しようとする、学校を集めてこないといけないので、それでは通学範囲がすごく広がるので、少し矛盾しているような気がするのですがそのあたりはいかがでしょうか。

【山田総務課長】

集めてくるという前提のもとで私どもは相談をかけておりませんし、実際に小規模校を集めてきてどうでしょうという話をいただいても難しいので、まずはどうしたらいいのかというところについてご審議いただきたいと思っています。今の段階で私どもが小規模校を集めていくという方向性を明確に持ってお話を差し上げているわけではないので、申し訳ないですがなかなかお答えがしにくいところがございます。

【久保会長】

私の感想ですけれども、やはりアンケートの自由記述というのは非常に重要なものと思います。その中で教員、保護者とも1学級の児童生徒の人数、法律では1年生は35人、2年生は大阪府の独自で35人、3年生以上は40人になっており、なかなか如何ともいいがたいところがありますが、子どもにとってより良い教育環境ということで考えると、学級規模に非常にご関心を持っておられるということが私としては非常に印象的でした。

【今西委員】

調査対象のところですが、支援学級担任や音楽の先生等が対象外ですが、そういった方も、小さい学校や大きい学校にも行かれていると思うので、そのあたりが入ってなかったことについては残念に思いました。それと例えば3年生が35人学級に適用された場合のクラス数はどう変化するのかといったことも見ていただき、そういう比較検討ができる材料があればありがたいと思いました。

【久保会長】

私の方からの質問も含めてなんですが、なかなかこのアンケートをとるのも非常に大変であったと思いますし、よくやっていただいたと私としては思っています。ただ難しいのは、1学年何学級ぐらいあったらいいかという時に、各学校でたまたま学級編成が何人かというのはかなり偶然性があります。1学年81名いたら3学級になりますし、逆に1学級で40人満杯もところもあります。それによってかなり違ってくるのではないかと、それが毎年変わっていくので、学校規模や学級規模を考える時にはそういった分かりにくい部分も含めて検討する必要があるというふうに思いました。

あと本日は事務局に私がお願いして、学級数と教職員の定数が連動しているという資料がお手元にあるかと思えます。小学校と中学校でかなり違いますし、都道府県によっても少しずつ違います。お手元にあるのは大阪府の基準です。岸和田市でも義務教育の学校はこれに基づくのですが、小学校は学級数に幾分プラスと、ほと

んどが学級単位であると考えていただくといいわけです。概ね学級数に 1.2 ぐらいかけたものが校長除く教頭以下の教員数ということです。ただ実際のところ、このところ教員数は非常に多くなっており、それは非常勤の方が入ってきているので実数としては多くなっていますが、正規の定員としてはこういう形の配置になっています。中学校は学級数に 1.5~1.6 ぐらいかけた数が教員の定数ということになります。このように学級数と教職員の数は連動しているのです。小規模の学校になると学級担任以外の専科を持てる人がほとんどいなくなるといった窮屈さが関係してきます。そういった非常にややこしい話があるのです。こしご案内いたしました。

それでは次の議題にいりますが、今日は小学校の学校規模、より良い教育環境はなにかということで審議していきたいと思えます。

議題（3）になりますが、小学校の適切な学校規模、より良い教育環境についての議論に移りたいと思えます。委員の皆様のお考えを出していただき、校園長会、所長会からも代表の方が出席されていますので、参考意見をいただけたらありがたいと思えます。

【藤原修身委員】

データとしてはこのアンケート結果が一番信頼できるものになるのでしょうか。2~3 学級にすべきということを保護者も含めて思われているということであれば、それにする以外の選択肢というものはないのではというふうに思いますがいかがでしょうか。それ以外に加味する説というものがある、我々がものを言えるのかどうか、そのあたりはいかがでしょうか。

【久保会長】

1 学年の学級数だけでいえば藤原委員がおっしゃるところかもしれませんが、学級数の問題だけではなく、皆さんからいろんな意見を出していただいて、最終、全体としてどこに落ち着こうかということになっていくと思えます。

【藤原修身委員】

それからもう 1 つ、このアンケートは保護者の方に開示しているのでしょうか。

【久保議長】

その点事務局いかがでしょうか。このアンケート結果は今日初めてご紹介いただいたのでしょうか。この後はどのような取り扱いになっていますか。

【金永総務課主査】

本日初めてご紹介しました。今後はホームページでもアップする予定です。

【藤原修身委員】

わかりました。そうであれば、今後、例えばアンケート結果では2～3学級が望ましいという意見が多かったことに対して、仮にそれと異なることを答申するとなれば、それなりの理由を説明しないとイケないということですね。

【久保議長】

そうなるかと思えます。

【今西委員】

シンプルに学級数だけを取り出すのではなく、会長も言っておられたようにいろいろ関連するのかなと思います。クラス数が多いと学校の設備が狭くて大変だとか色々な原因があると思うので、現場の皆さんは単にクラス数の問題だけで考えているのかということについて少し気になりました。何度も出ていますが少人数で考えればクラス数も増えますし、少人数で2クラスになった場合はどうなのかとか、学年全体の生徒数と加味して考えないと、単にクラス数の数だけということはないのかなと思います。全体を見た中でどれが望ましいのか、そういった整備が必要なのかといったことにもなると思います。

【久保会長】

アンケートへの質問ではないのですが、少し気になっているのが、小規模の特徴として一人ひとりに行き届いた指導ができていたといった項目がありました。それとも関連しますが、事務局では、「不登校の出現率」、「いじめの出現率」、「学力」の3点、学習権保障という観点で学校の規模による相関関係があるのかどうかということについてどのように見ておられますか。

【倉垣学校教育課長】

「不登校」、「いじめ認知件数」、学力学習調査等による「学力」について、我々の捉えといたしましては、本市のデータを見る限り学校規模や1学級あたりの児童生徒数と極端な相関関係が見られるという受け取りはしておりません。

【井上委員】

アンケートの中でも規模について、校区を調整すればいいのではという意見がありました。それはもっともだと思いますし、校区を自由に変えることができれば適正規模の問題も生じないと思いますが、地域のコミュニティを考えた場合、校区は重要な事柄ですので簡単に変えることは好ましくないと思います。しかしながらある程度はいろいろなバリエーションを考えながら子どもに添った校区選定が柔軟

にできれば魅力のある学校については人数が増えるといったこともなると思います。そういったことも大事にしていかないといけないと思いました。

【久保会長】

通学区の弾力的措置をさらにというご意見であると思います。子ども一人ひとりの状況、ニーズ、課題に応じた弾力的措置をとということであります。事務局から通学区に弾力的措置について何かありますでしょうか。

【山田総務課長】

教育的配慮という部分において、本来の通学区と違う学校に通うお子さんについては丁寧にお話を進めて対応させていただいております。ただあまりにもその部分が弾力的すぎると通学区という考え方自体がなくなってしまうので、今現状すぐにさらに弾力化をとった対応はできておりません。

【久保会長】

他になれば校長先生、園長先生からいろいろなご経験を踏まえて小規模校や大規模校の課題などをお話しただけならありがたいと思います。今日は小学校をテーマにしていますので、まず篠本校長先生からお願いします。

【篠本小学校長会会長】

まず、先ほど支援学級の児童生徒のお話がありましたが、ともに学ぶということで支援学級の子どもたちが通常学級に戻ってきて、3人いつもより多い状態ということが1日のうちでも何時間もあるということが本校でもございます。

【久保会長】

篠本校長先生の学校は支援学級を含めると、30学級で教員配置もされていると考えたらよろしいのでしょうか。

【篠本小学校長会会長】

はい。それ以外にも少人数指導等といった加配はあります。

あと、本校は大規模校ですので運動場でぶつかってけがをすることもあります。ただ1学年4学級ありますので運動会は盛り上がります。我々が教育をするうえで4学級が特に難しいということはありませんが、例えば運動会の際、保護者の方の観覧席ということにもなりますので、そういうことを考えると5学級では苦しい、4学級までだろうなという感覚があります。3学級ではもう少し余裕が生まれるだろうなと思います。

【久保会長】

これまで小規模校の勤務経験もありましたでしょうか。

【篠本小学校長会会長】

前任校は 1 学年 3 学級でありました。学習そのものについてはそれほど大きく変わるものではありませんし、クラス替えも十分にできておりました。

【久保会長】

今の学校の専科はどのような状況ですか。

【篠本小学校長会会長】

4 年生からの音楽と 5 年生、6 年生の家庭科は専科で配置しています。特に音楽はほぼ毎時間授業に入りますので少し負担が大きくなっています。

【久保会長】

次に幼稚園から寺田園長先生、先生は旭小学校の校長も兼務されていますので小学校の話も併せてお願いします。

【寺田幼稚園長会会長】

今までのデータを見る限り、2 学級～3 学級が学級数としては望ましいのかなと思います。私自身も小規模校から大規模校まで勤務してきました。小規模校には小規模校なりのメリットもたくさんあると思います。ただその中でやはり人間関係を作っていくという部分においては、1 学級では厳しいところもあるのかなと思っております。ただ 1 つ中学校に行ったときに、小規模校から行った児童が友達関係でつまづくといったことはあまりないのかなという印象です。

先ほどから学級定数についてのお話がありました。1 年生、2 年生は 35 人と低学年から手厚い支援がとられているという状況です。私は特に幼稚園長も兼ねていますので、小さい子どもであればあるほど定数は少ないほうが望ましいのではないかという思いはあります。市の単独予算で定数引き下げもお考えいただければありがたいと思います。

【久保会長】

今のお話にもありましたように、学級定数については 8 年前の法改正で市町村の独自性も許容されるようになりました。市の財政との兼ね合いもありなかなか難しいでしょうが、岸和田市も例えば 25 人学級を打ち出すということは理屈的には可能であります。寺田校園長は法令等を加味しなければ 1 学級あたりどれぐらいの児

童が望ましいと思われませんか。

【寺田幼稚園長会会長】

低学年の場合は今の35人でも少し多いかなと、理想は30人かと思います。ただ高学年になると友人関係やグループ活動も重要視されるので、もう少し数は多くてもよいのかなと思います。

【久保会長】

篠本校長は1学級の望ましい児童数についてどうでしょうか。

【篠本小学校長会会長】

私見になりますが、30人位がよいのかなと思います。

今の運用で行くと2年生から3年生に上がるときに35人から40人になるためにクラス数が減る場合が時々あるので、そのあたりが十分な教育という意味では非常に心苦しい時があります。

【久保会長】

では中学校長会の花田会長お願いします。

【花田中学校長会会長】

前任の山滝中学校でのお話をしますと、3年生が41人で2学級、21人と20人の学級でありました。逆に2年生は39人で1学級ということで、全く状況が異なるわけですが、どちらをとってもメリット、デメリットがあります。学級規模の大きい小さいどちらがいいかといっても一概には言えないなと思います。山滝中学校では少人数だからできる事といった特色を心がけていましたし、学年6～7学級ある今の岸城中学校では今の規模だからできることをという考えをもって取り組んでおります。

できれば1学級の生徒は少ないほうが目が行き届くと思いますし、先生は多いほうが関わってあげられる機会が多くなるというふうに感じています。

【久保会長】

学級の人数でいえばどれぐらいでしょうか。

【花田中学校長会会長】

現在支援学級の生徒が21人いて、中でも2年生が一番多く13人います。13人を5学級で割っている所以全部のクラスが40人を超えています。教室がかなり

手狭になっているという状況です。できれば30人がありがたいと思います。

【久保会長】

今から8年前、当時の文科省が立てた改善計画（案）では、中学校3年生まで35人学級に、小1、小2は30人になっている予定だったのですが、財務省との関係の中で計画が上手くいかなかったという経過がありました。ですから全然不可能ではないはずなのですが、今の情勢からいうと確かに厳しいかなと思います。

それでは津村所長お願いします。

【津村保育所長会会長】

私が勤務する桜台保育所は大規模校の常盤小学校や光明小学校に進学する校区にあります。160名が定員でそのうちの5歳児は30名が定員です。現状公立保育所は中学校区と同じ11園ありますが、入所の兼ね合いで他の校区から通園しているお子さんもいます。各小学校へ子どもを送り出すにあたって、年々引継ぎ事項が多くなっているのが現状です。支援の必要なお子さんが年々増えています。引継ぎの手段として、あゆみファイルを保護者の持ち物として小学校、中学校への引継ぎの際に使用していますが、それが年々増えてきています。割合として1/3程度、10人位が小学校への引継ぎの際何らかの配慮が必要な状況です。発達の支援だけでなく、虐待等の家庭的な事情で見守りが必要な子どももいらっしゃいます。小学校ではそういったお子さんを毎年引き継いでいただいているのが現状です。ですから私たちも最前列でお願いしますとか、わかっているような顔をして静かに座っているのだけれども、そういうお子さんほどなかなかわからずに座っている場合もあり、最初のポイントの一言目がわからなければ、授業の最後までわからずじまいや、友達のやるのを見ながらやっているといった子どもさんもたくさんいらっしゃる。引継ぎをする際にお子さんを小学校へ送り出した後の先生方の大変さというものを年々思っている次第です。

【久保会長】

ただいま4名の先生方からお話をいただきましたが、委員の皆様からお尋ねされたいことがあればどうぞお願いします。

【浦嶋副会長】

アンケートを見て単に学級の数だけを言うと結果が出ているのではないかということになりますが、実際にアンケートをお答えになった理由などをもう少しこの審議会の中で掘り下げる必要があるのではないかと思います。具体的に人数が多く大規模でこれ以上物理的に、学校の努力だけではどうにもならないことと、学校

の取組みによってある程度緩和したり解決したりできるものもあると思います。例えば運動会の盛り上がりのお話でいうと、小規模の学校でも子どもたちの反応を見ると盛り上がっているというケースが多いと思います。これはきっと人数が少ないなりに学校でいろいろな努力をされている結果だだと思います。もう一つ物理的な例でいうと、人数が多いことで特別教室が十分に割り当てられないとなると、子どもたちの教育の機会均等に関わってくるという話になります。特に小学校の段階では主体的な学びなど、新しい学習指導要領でいろんなことを求められていますが、活動に制限が加わってしまうような物理的に困難だというようなお話があれば聞かせていただけたらと思います。

【篠本小学校長会会長】

本校では現状の教室にほぼ空きがありません。支援学級においては教室の真ん中に壁を作って大きな部屋を二つに分けてということがあります。また少人数教室が2つありますが、いろんな学年で使うことがあるので十分に使えないとか、運動場も1学年全員で使わざるを負えないということもあります。合同体育になるので良い面もありますが、本来であればもう少し余裕を持って使えるのにということもあります。また相談室が十分に取れないといったこともあります。これらはなかなか自分たちの工夫では解決しにくいところかなと思います。

【寺田幼稚園長会会長】

現任校で申し上げますと、特別教室の割り振りについては予約表を使って早い段階から授業や行事に合わせて教室を押さえている状況です。特に活動に制限が生じるというクラス数ではないので、今の運用で調整しながら本校の場合はすすめております。ただ小規模校での勤務経験もありますが、現状と比較しますと人数が少ない分、自由に使える割合が高くなるといったメリットがありました。

【浦嶋副会長】

私は理科が専門ですので、理科室でいいますと、授業の1時間だけ使えたらいいというのではなく準備から片付けまで部屋を使うということもありますし、例えば小学校でいうと学習菜園、子どもたちにとって、自分のじゃがいも1個と班のじゃがいも1個では全然違うことになるので、そのあたりが非常に気になって質問させていただきました。

【藤原修身委員】

通学距離について、一番遠いところから通っているお子さんは何キロぐらいでしょうか。

【篠本小学校長会会長】

30分程度かけて通っている児童もいます。できるだけ安全な道を通学路にしていますが、車が多く通る場所もあります。

【藤原修身委員】

踏切を超える場所もあるのですか。

【篠本小学校長会会長】

はい。踏切を超える場所もあります。山手は水道みちから下松まで歩いてくる子もいます。

【寺田幼稚園長会会長】

何キロかというところまで把握できていませんが、本校も校区が広いので低学年、特に1年生のお子さんでしたら40分近くかかるお子さんもいるかと思います。

【花田中学校長会会長】

中学校ですが、一番遠いところで距離にしたら直線で1.8キロぐらい、時間にしたら30分ぐらいであると思います。

【久保会長】

山滝の時はどうでしたか。

【花田中学校長会会長】

山滝では一番遠いところで8キロあります。自転車通学になっています。

【久保会長】

アンケートにもあったように通学の時間や距離といった子どもの安全にかかわることは大事なことであると思います。就学援助という制度がありますが、その制度の国の基準は小学校4キロ中学校6キロとなっています。私は時代遅れであると思っています。4キロということは1時間以上、小学校1年生の子であればもっとかかるでしょう。それでも4キロや6キロが適正な通学範囲とされています。今の話をお聞きして安心しましたが、岸和田の場合はもう少し短い時間で通学できているということですね。

全体として事務局いかがですか。通学距離や時間についてもっと長い学校はあったりするのですか。

【山田総務課長】

申し訳ないですがそのあたりのデータは把握しておりません。

【藤原亨委員】

天草市の事例ですが、2市8町が合併した時に、小学校が45校から17校になっています。面積が岸和田の72.68K㎡に対し天草市は683.86K㎡で東京23区と同じぐらいの大きさです。その中に小学校が17校ということは、通学距離が8キロや10キロでもないと思うので、そういうところはまた調べていただきたいと思います。それと駐在所の話ですが、私の校区の内畑駐在所は今まで内畑しか見ていなかったのですが、今回管轄が変わり山直南の一部も見るということになりました。ですから学区についても天草の例を考えれば、岸和田の山から浜までいくのも可能かなあと、そういうことも踏まえて考えていただけたらと思います。

【久保会長】

通学距離や時間についてご意見をいただきました。大事なお話をいただきありがとうございました。この問題は必ず視野に入れて考えていかなければならないと思っています。

【藤原修身委員】

山手ですと校区の見直しで2学級から3学級を編成しようとする、学校を統合する形しかありません。そうすると今度はそこにアクセスする交通の手段、例えばスクールバスを出してもらえるのかといった調査等が必要でないかと思います。大規模校で人数を調整できる校区はいいですが、そうではないところは交通手段等具体的なアンケートを別途取り直して地域の人が、本当にどう考えているのかということを知る必要があるのではないかと思います。

【久保会長】

今の点について事務局いかがでしょうか。

【山田総務課長】

山手地域が校区割りでの対応は難しく、統合しかないとすると移動距離の課題が出てきますが、では統合した方がいいのか、校区割りなら無理なのかという部分の方向性をいただいたうえで、かつ、それで決まっていくのであれば、バス等の通学手段をどうするのかといった課題を次の段階でご相談させていただければと思っています。

【久保会長】

私から確認しておく、例えば学年で2学級が適正規模となったとしても、じゃあ1学級しかない学校は統合かということそう単純な話でもないと思います。

ここで共通認識しておきたいのは、仮に適正規模が2学級～3学級となっても、そうでない学校は統廃合ということではないということです。保護者や地域住民との話し合いや合意が必要であるということ言うまでもありません。

【今西委員】

少人数化の中でクラス数を増やすということは現場の声やアンケートからも要望が高いと思います。その中で、これは予算にも関わることなので簡単ではないと思いますが、子どもたちにとって何がいいかということが大事ですので、統廃合や小中一貫校のやり方は財政的には安くあがるというメリットはありますが、果たしてそれが子どもたちにとって一番いい選択なのかといういろいろなデメリットも大きいと思います。海外ではもっと小規模のクラスでやっているところがありますが、それにより教育内容も討論型で自主的なものになっていると聞いて、いいなと思いました。ぐっと人数を減らすと教育効果としてどうなのかということについて先生方はどのようにお考えなのかお伺いしたいのですがいかがでしょうか。

【久保会長】

PISA学力調査等を行っているOECD（経済協力開発機構）加盟国の平均的な学級人数が20人台の前半です。国際的には日本は規模が大きくなっているということは参考になると思います。

【花田中学校長会会長】

1班4～5人で編成される班学習を最近は多く取り入れています。40人では10班、20人では5班のグループができます。その中でそれぞれ意見を出し合って議論するのですが、発表の際に10個の意見を聞くことができるのか、5個の意見を聞くことができるのか、どちらがいいのかとなるとやはり10個の意見を聞く方が吸収するものが多いわけで、ですから少なければいいというものでもないし、多ければしんどいというだけではないと思います。

【篠本小学校長会会長】

いろんな場面があるほうがいいと思います。今の話にもあったように30人から40人程度でたくさんの班があれば子どもたちは多様な考えを受け入れることができると思います。各々が別々のことをやる場面もあっていいかと思いますが、やは

りみんなで磨きあって、人のことを尊重してというところが大事なかなと思いますので少なければいいというものではないと思います。

【寺田幼稚園長会会長】

低学年は2人のペアから始め、中学年高学年となると4～5人で意見をまとめ、それを黒板に掲示をしながら班ごとの意見交換の場面ということがあります。やはり多様な考え方ができる人数は必要であると思いますので、20人というお話もありましたが、30人程度が子どもたちの多様な考え方を引き出せる適切な規模かなあと思います。

【久保会長】

30人学級にすると人数がぐっと減りますので、実の人数でということでありました。浦嶋委員、理科の実験ではいかがでしょうか。

【浦嶋副会長】

理科でしたら多くても4人が限界かなと思います。理科の実験ではそれ以上多くなると見ているだけの子どもが出てきてしまいます。その4人の班が教室で納まる数でいいますとおおよそ6～8グループといったところでしょうか。

学級規模については少ない方がいいという声が先生方や保護者の方からも圧倒的に多いわけですが、では財政と協議する時にそれで学力やけがの件数がどう変わったのかといった客観的な話になってきます。その際になかなか人数が減ったからこう変わったといった資料は出しにくいという現状です。そういう意味でいきますと、子どもたちにとって望ましい教育環境というのは最低でも多様な学習形態を選択できる環境を作っていくことではないかと思います。

【久保会長】

いろいろなご意見をいただきました。私がまとめるということも難しいのですが例えば1学年で2学級程度、学級人数については30人程度が望ましいということであれば、小学校なら全部で12学級程度になります。何が適正かということをお示しするとなればそのあたりかと思いながら、今日は結論を出さずに、次回は中学校の問題についてご審議いただきますので、それも踏まえて少し間をおいてお考えいただければと思います

【井上委員】

学校全体の児童数が何人程度が適当かということは、1学年の学級数が決まれば全体の人数は出せるので、人数まで決める必要はないと思います。その辺りも確認

していただければありがたいと思います。2学級程度とするか、最低2学級とするか、2～3学級だと少し幅が大き過ぎるように思います。

【久保議長】

学級数のみを概ね示しておけばということですね。私としては学級人数についても、だいたいこれぐらいというのは示したいと思っております。

それでは、本日の審議についてはこれで終了したいと思います。最後に事務局からの連絡をお願いします。

【高井総務課参事】

(次回開催スケジュール等について説明)

【久保議長】

それではこれで第2回岸和田市立小中学校等規模及び配置適正化審議会を閉会いたします。皆さまありがとうございました。

本会議録に相違ないことを認め署名する。

会 長

副 会 長

署名委員
